

5. 岩倉の精神病療養環境の変容過程（幕末～）

第5章では、岩倉の村落空間の〈内⇄外〉間を連続的に分析することで、岩倉が領域として有していた形態的特質を見出すことを試みた。分析では下記の手順に従った。

- ①主に平面図を基に岩倉の空間構成要素を抽出する。
- ②各要素について建築時期の違いによる変遷の傾向を分析する。

5.3 各建築物の空間構造の構成要素の分析

5.3.1 敷地内（屋内）の要素

分析要素：【客室／病室】【居間】【保養所一家の生活空間】

全ての保養所において、それを運営する家族の生活領域が玄関周りにあったことから、保養所は第一義として一家のための家であり続けたと言える。居室に特別な設備はなく、病人は一般的な民家と同様の和室で過ごしていた。室内には寝床となる部屋だけでなく、多目的に使用されていたと考えられる部屋も見受けられた。

5.3.2 敷地内（屋内外の境界）の要素

分析要素：【縁側】【鉄格子】

岩倉の建築物群では、成立時期を問わず屋内外が縁側を介して積極的に接続されており、病人を居室に監禁する意思は感じられない。一方で、世話が楽な者に限定せずに病人を預かっていた一部の〈後期保養所〉では、鉄格子を用いて部分的に開口部を遮断することもあったが、脱走して行方不明になる恐れが大きい子供を預かっていたことによる必要最低限の対応だったのではないかと考えられる。

5.3.3 敷地内（屋外）の要素

分析要素：【樹林】【芝生・花壇】【池】【竹垣】

表1 敷地内（屋外）の要素							
	①城守保養所	②今井保養所	③岡山保養所	④西川保養所	岩倉病院	⑤渡辺保養所	⑥村松保養所
樹林	●	●	●	●※1	●	●	●
芝生・花壇	●	●	●		●	●	●
池※2	●		●		●		
竹籬		●	●		不明	●	●

〈初期保養所〉や〔③岡山保養所〕の本館では、縁側の巡らされた日本庭園のような中庭が宿泊者の主要な屋外空間であった。庭園は樹木で囲まれているが、監禁の効果はなく、むしろ樹木が外部からの視線を適度に遮ることで中庭の快適性が増したと考えられる。岩倉病院の設立以降は、芝生の庭が建物の外側を囲むようになり、病人が保養所一家と共に作業をする場としての性格が強められた。そこには貯水池やテニスコート、玄関へのアプローチなど、具体的な機能を持つ要素も付加された。

このように岩倉では、「機能を有さない中庭」から「設備としての外庭」への転換が見られた。これは、岩倉病院や〈後期保養所〉が、既存の茶屋とは全く由来を異にする西洋式「治療」概念を携えて建設されたことに起因すると考えられる。同時に〈後期保養所〉からは、従来の保養所のような富裕層向けの旅館としての性格は消失し、世俗化が起こっていたと言えるだろう。

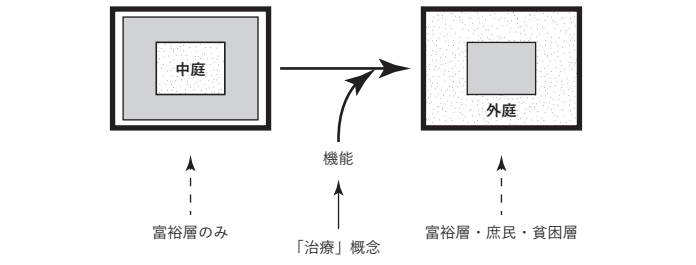


図2 岩倉の建築物群における庭の変容

5.3.4 敷地内外の境界の要素

分析要素：【塀・垣】【門・玄関】【鉄条網】

表2 敷地内外を隔てる要素							
	①城守保養所	②今井保養所	③岡山保養所	④西川保養所	岩倉病院	⑤渡辺保養所	⑥村松保養所
生籬		●	●		—		●
板塀	●		●	●	—	●	
土塀		●		●	—		●
石垣			●		—		
境界の種類数	1	2	3	2	—	1	1

〈初期保養所〉〈中期保養所〉では敷地内外の境界に多種多様な塀・垣が置かれ、門がある場合は2つ以上設けられた。後に設立された岩倉病院と〈後期保養所〉では単一の塀・垣が巡らされ、門も1つにまとめられた。この変化と並行して、〈初期保養所〉で門と並列関係にあった玄関が、〈中期保養所〉以降は門の内側に後退し、従属化した。それでも〈後期保養所〉に至るまで、病人が玄関を通らずに居室から直接敷地外へ出る経路は絶たれなかった。

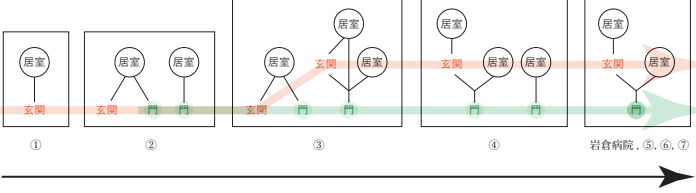


図3 敷地外部と居室の接続関係

保養所において敷地内外の境界が全体として単一化へ向かったことについては、次の3つの解釈が同時に考えられる。

- ①精神病患者監護法の制定に伴い、私宅監置の場合と同様に、保養所にも病人への監視を強める責任が求められるようになった。
- ②富裕層に限らず受け入れた〈後期保養所〉になると世話の苦労が増し、保養所が疲弊しないためにも出入口を1つに絞って監視を強める必要があった。
- ③保養所一家と病人が1つの同じ門を通るようになったという事実、に、宿泊客を家族同然に扱う姿勢が表れている。たとえ警察の監視を受けてやむをえず鉄条網を取り付けたとしても、保養所一家が「監置」という姿勢を取ることはなかったからこそ、病人は変わらず自室から直接外へ出ることができた。

5.4 岩倉の村落空間の俯瞰的分析

病人は村内の各所にて、農作業の手伝いなどを日常的に行っていた。〈初期保養所〉〈中期保養所〉は岩倉川下流から大雲寺に向かうまでの道沿いに建てられたが、〈後期保養所〉も含めると岩倉病院を中心に村の周縁に散らばった配置になった。

5.5 岩倉の村落空間と外部との接続

叡山電鉄の開通により、岩倉の従来の地理的隔離性は薄れたと言える。



図4 1930年代の岩倉の集落復元略図

6. 考察

近代化日本に登場した精神病院の空間構造は、〈治療者⇄患者〉〈監視者⇄被監視者〉の二項対立的な関係を、閉鎖的な一重の境界で包囲するものだった。

一方で岩倉は、様々な要素が重なりあった多層的な領域を成していた。さらに、各層はそれぞれ閉じきっておらず、居住者はそれらの間を自由に行き来できた。岩倉の滞在者にとって、〈内⇄外〉の間に横たわる連続的空間は、自らの「病」性の受容と否定との間の葛藤を有形の生存領域を与えるものだったと言えるだろう。

ただ一方で、岩倉の後期の保養所では、設立の理念は多様化したにもかかわらず、空間構造の面ではむしろ画一化へ向かったようにも見える。ここに、あくまでも旅館として営業していた〈初期保養所〉〈中期保養所〉が示す「選択的に離れられる「家族」性」から、治療共同体としての性格を帯びた〈後期保養所〉が示す「回歸すべき「家族」性」への価値観の変化が見られたと考察した。

7. 結論

岩倉では、その多層的な空間構造によって〈治療者⇄患者〉の二項対立的枠組みが西洋式病院と比較すると曖昧化されたうえに、「病」に対して多くの方向性を提示する有形の場所が同時に並存していたため、転地先としての需要が絶えず、長期的に持続したと結論づけた。

8. 参考文献・図版出典

【参考文献】

- 日本の精神医療
- ・呉秀三「我邦ニ於ケル精神病ニ関スル最近ノ施設」1912年
- ・呉秀三・櫻田五郎「精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的觀察」1920年
- ・内務省衛生局 編纂「精神病院制定理由」『衛生法典 上巻』日刊内務通信社出版部（東京）、1932年
- ・菅修「本邦ニ於ケル精神病者並ビニ之ニ近接セル精神異常者ニ関スル調査」『精神神経学雑誌』1937年
- ・厚生省保健医療局精神保健課 監修『我が国の精神保健（精神保健ハンドブック）』厚生出版株式会社、1987年
- ・岡田靖雄『日本精神科医療史』医学書院、2002年
- ・八木剛平・田辺英『日本精神病治療史』金原出版株式会社、2002年
- ・小林靖彦「精神病者保養所の群生していた2つの地域について」『精神医学』1974年
- ・兵頭晶子「精神病の日本近代 憑く心身から病む心身へ」青弓社、2008年
- ・小俣和一郎『精神病院の起源』太田出版、1998年
- ・小俣和一郎『精神病院の起源 近代編』太田出版、2000年
- ・橋本明 編『治療の場所と精神医療史』日本評論社、2010年
- ・橋本明『精神病者と私宅監置―近代日本精神医療史の基礎的研究』六花出版、2011年

●日本の病院の建築計画（明治～昭和初期）

- ・日本建築学会 編『近代日本建築学発達史』丸善、1972年
- ・青木正夫・新谷肇一・篠原宏年「長崎養生所の敷地選定と配置計画について 日本最初の近代洋式病院、長崎養生所に関する計画史的研究Ⅰ」『日本建築学会計画系論文報告集』362号、日本建築学会、1986年

●岩倉・京都市の精神医療

- ・『京都医事衛生誌』第439号、京都医事衛生社、1930年
- ・『京都医事衛生誌』第499号、京都医事衛生社、1935年
- ・『京都医事衛生誌』第500号、京都医事衛生社、1935年
- ・「岩倉病院案内」岩倉病院、1937年
- ・京都市社会課 編『調査報告第38号 京都市に於ける精神病者及其の収容施設に関する調査』京都市、1935年
- ・京都府医師会 編『京都の医学史 第8編』思文閣出版、1980年
- ・藤川達明・東村輝彦「洛北の地「岩倉」における精神障害者に対する処遇の歴史について（その1）」『藍野病院医学雑誌』第4巻第1号、藍野学術財団、1982年
- ・藤川達明・東村輝彦「洛北の地「岩倉」における精神障害者に対する処遇の歴史について（その2）」『藍野病院医学雑誌』第5巻第1号、藍野学術財団、1983年
- ・跡部信・岩崎奈緒子・吉岡真二「近世京都岩倉村における「家庭看護」（上）」『精神医学』第37巻第11号、医学書院、1995年
- ・跡部信・岩崎奈緒子・吉岡真二「近世京都岩倉村における「家庭看護」（下）」『精神医学』第37巻第12号、医学書院、1995年
- ・加藤伸勝『地域精神医療の曙―京都岩倉村における実践』金芳堂、1996年
- ・中村治・青山純『癒しの里・洛北岩倉』岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2000年
- ・中村治『洛北岩倉』コトコト、2007
- ・中村治「精神医療の流れと洛北岩倉―第二次世界大戦まで―」『人間科学：大阪府立大学紀要』2(2006)、p.97-114
- ・中村治「養生所から保養所へ―健康観の変化と保養所の戦略―」『精神医学史研究』17(2)p.74-80、2013年
- ・中村治『洛北岩倉と精神医療―精神病患者患者家族的看護の伝統の形成と消失』世界思想社、2013年

【図版出典】

- 図1 「保養所平面図」(中村治・青山純『癒しの里・洛北岩倉』岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2000年)に筆者加筆
- 図2 筆者作成
- 図3 筆者作成
- 図4 筆者作成
- 表1 「保養所平面図」（同書）をもとに筆者作成
- 表2 「保養所平面図」（同書）をもとに筆者作成